

第4回 鶴岡市中心市街地将来ビジョン・ 中心市街地活性化基本計画策定委員会

日時 令和6年7月17日（水）13：30～
場所 鶴岡市役所別棟2号館 21～23会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

- （1）中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員
の変更について

4 協 議

- （1）第3期中心市街地活性化基本計画（案）について
- （2）その他

5 そ の 他

- （1）今後のスケジュールについて

第5回策定委員会

○日時／令和6年10月15日（火） 午後3時

○会場／鶴岡商工会議所 大会議室

6 閉 会

中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員会 委員名簿

任期：委嘱日から令和 7 年 3 月 3 1 日まで

■日時：令和 6 年 7 月 1 7 日（水）13:30～

■場所：鶴岡市役所 別棟 2 号館 2 1 ～ 2 3 会議室

《委員》

※敬称略

所属	役職	氏名	備考
(1) 中心市街地の活性化に関する法律第 1 5 条第 1 項に規定する者			
鶴岡商工会議所	会頭	上野 雅史	委員長
一般財団法人鶴岡市開発公社	理事長	阿部 真一	
特定非営利活動法人つるおかランド・バンク	理事長	阿部 俊夫	交代
(2) 経済、観光又は交通に関する者			
鶴岡TMO運営会議	委員長	國井 英夫	退任
鶴岡商店会連合会	会長	尾川 勝則	
一般社団法人DEGAM鶴岡ツーリズムビューロー	事業課係長	ミヨ サラ ラッシュェル	
公益社団法人鶴岡青年会議所	理事長	鈴木 俊将	
ANA あきんど株式会社庄内支店	ANA SHONAI BLUE Ambassador	佐藤 菜々子	
庄内コン実行委員会	代表	三浦 明弓	
I n s i d e T s u r u o k a	代表	岡部 浩美	
(3) 歴史文化又は都市開発全般に関する専門知識を有する者			
公益財団法人致道博物館	理事・学芸部長	本間 豊	
山形県建設業協会鶴岡支部	支部長	五十嵐 久廣	代理出席 山本 斉
一般社団法人山形県建築士会鶴岡田川支部	まちづくり委員会 副委員長	鈴木 小枝	

《オブザーバー》

所属	役職	氏名	
東北経済産業局	産業部商業・流通サービス産業課長	成田 早霧	
東北地方整備局	建政部都市・住宅整備課長	清水 明彦	代理出席 勝長 周悟
独立行政法人中小企業基盤整備機構	高度化事業部まちづくり推進室長	林 伸次	代理出席 安達 富夫
独立行政法人都市再生機構	東日本都市再生本部 まちづくり支援部長	鈴木 孝弘	

《アドバイザー》

※敬称略

所属	役職	氏名	
早稲田大学	教授	矢口 哲也	

第3期 鶴岡市中心市街地活性化基本計画 【概要版】（案）



1. 鶴岡市の沿革と中心市街地活性化基本計画

鶴岡市（中心市街地）の沿革

本市では、郊外部における土地区画整理事業などによる市街地区域の拡大に伴う中心部の人口減少、ロードサイド型の大規模小売店舗の進出等で既存商店の売上げ減少や商店主の高齢化・後継者不足等による商店街機能の低迷等を背景に、中心市街地が求心力を失いつつあり、地域コミュニティの崩壊や市の魅力の消失にも繋がる懸念されていた。

しかしながら、都市としての中核機能は郊外地に移転・分散させず、各々の機能の存続・高度化を図るという基本方針の下、中心市街地には鶴岡市役所、裁判所などの行政施設、大宝館や鶴岡アートフォーラムなどの文化施設などが存在し続けてきたことに加え、慶應義塾大学先端生命科学研究所及び東北公益文科大学大学院の立地、市立荘内病院の移転新築、鶴岡市総合保健福祉センターにこ♥ふる整備、荘銀タクト鶴岡が同地区内に新築されたほか、近年では鶴岡税務署などが入居する鶴岡第2地方合同庁舎が整備された。人口減少が見込まれる中、中心市街地・生活拠点・地域拠点・小さな拠点などの集落をそれぞれコンパクトに形成して、地域公共交通等で結ぶ「多極ネットワーク型まちづくり」を推進し、持続可能な都市構造を構築していく必要があることから、都市機能の中心市街地への集積を進めてきた。

計画期間・区域

【第1期計画】

□計画期間 平成20年7月～平成25年3月

□計画区域

鶴岡市役所等が存する官公庁地区を中心として、鶴岡駅からまちづくり上のシンボル軸となる逆L字に伸びた商店街を含む約142ha

【第2期計画】

□計画期間 平成30年4月～令和5年3月（市任意計画として令和7年3月まで延長）

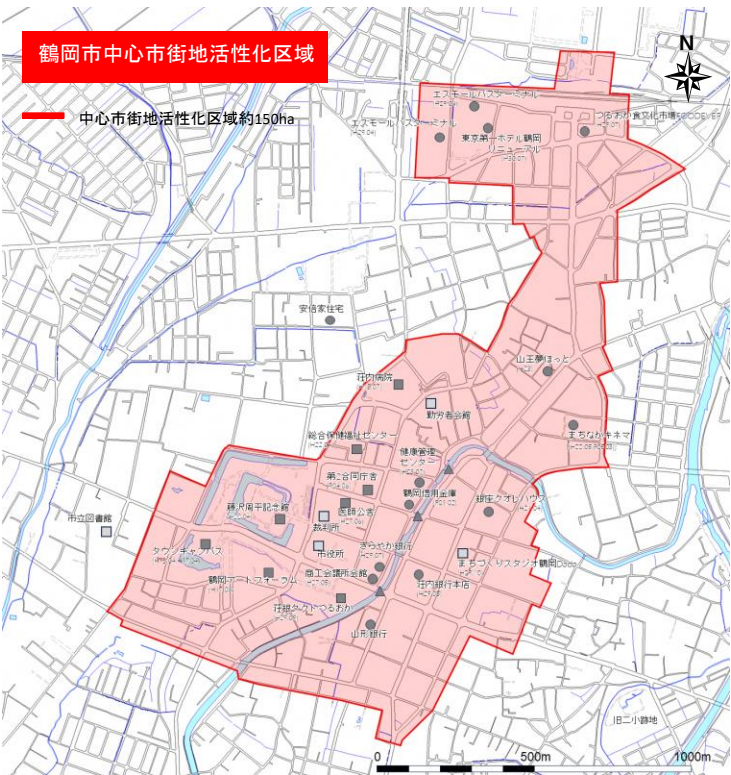
□計画区域

第1期計画の区域に加えて、鶴岡駅前付近や致道博物館南側などを拡張した約150ha

【第3期計画】

■計画期間 令和7年4月～令和12年3月

■計画区域 第2期計画と同じ約150ha



2. 中心市街地の現状と前期計画のフォローアップ

前期計画では「多様な人々が行き交い、新たな出会いと展開が生み出すにぎわいの創出」、「城下町の歴史と文化が息づく中心市街地の持続的発展」、「ユネスコ食文化創造都市のブランドを活かしたまちなか観光の振興」といった基本方針のもと事業を実施した。全55事業のうちハード事業は16事業が完了、又は継続実施、ソフト事業は全37事業を実施。ハード事業2事業は未着手であるものの、計画した事業は概ね予定どおり実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響などで目標指標は未達成となり、アンケートでも賑わいを感じない意見が多かった。

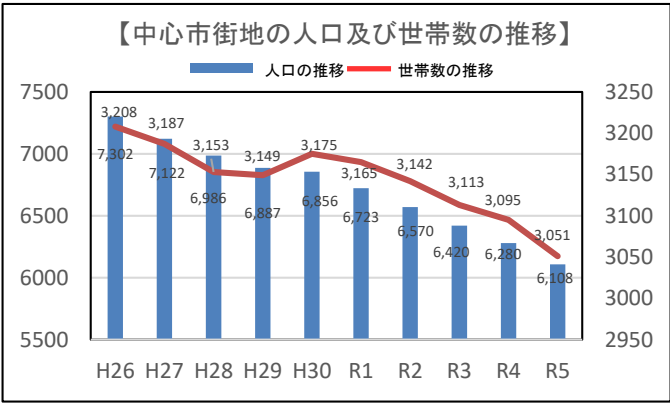
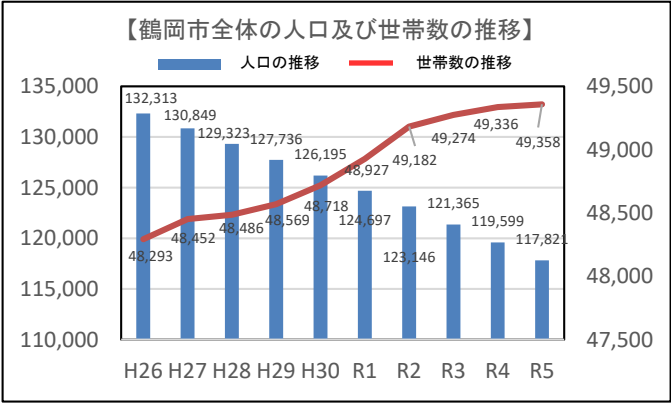
(1) 居住の場、活動の場、交流の場としての中心市街地の再生

【目標指標】 中心市街地居住人口の市内総人口に占める割合
【目標】 5. 6 % 【実績】 5. 3 % 【未達成】

鶴岡市の人口は年々減少傾向にあるが、世帯数は増加を続けている。平成26年度～令和5年度の10年間で人口は約11%減少しているが、世帯数は約2.2%増加している。一方、中心市街地では10年間で人口が約15.5%減少し、世帯数も約4%減少している。

前期計画のまちなか居住整備事業では住環境整備を計画したが、駅前地区の複合型住宅建設は山形県沖地震の影響で再考を余儀なくされたこと、銀座地区の低中層集合型住宅の建設は事業半ばで中止になるなど、民間投資が促進されず住居整備が実施できなかった。

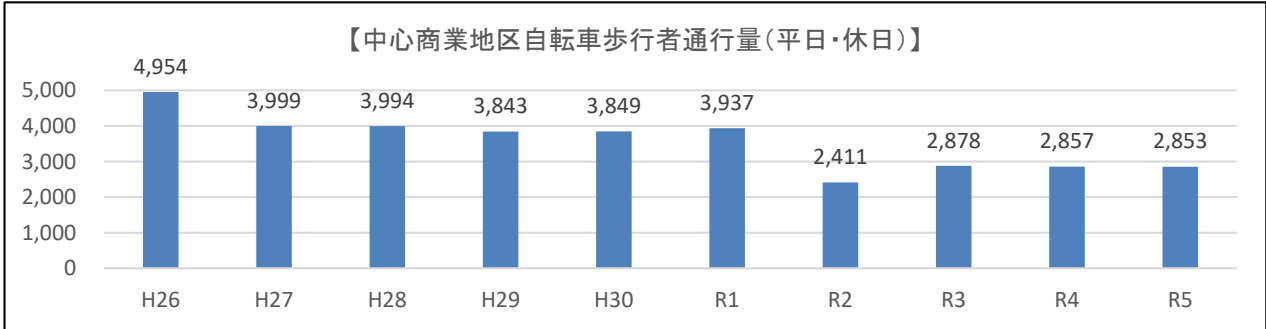
年度	居住人口割合（％）
H30	5.4%
R1	5.4%
R2	5.3%
R3	5.3%
R4	5.3%
R5	5.2%



(2) 中心市街地の賑わいの創出

【目標指標】 中心商業地区自転車歩行者通行量
【目標】 4, 1 9 4 人 【実績】 2, 8 5 7 人 【未達成】

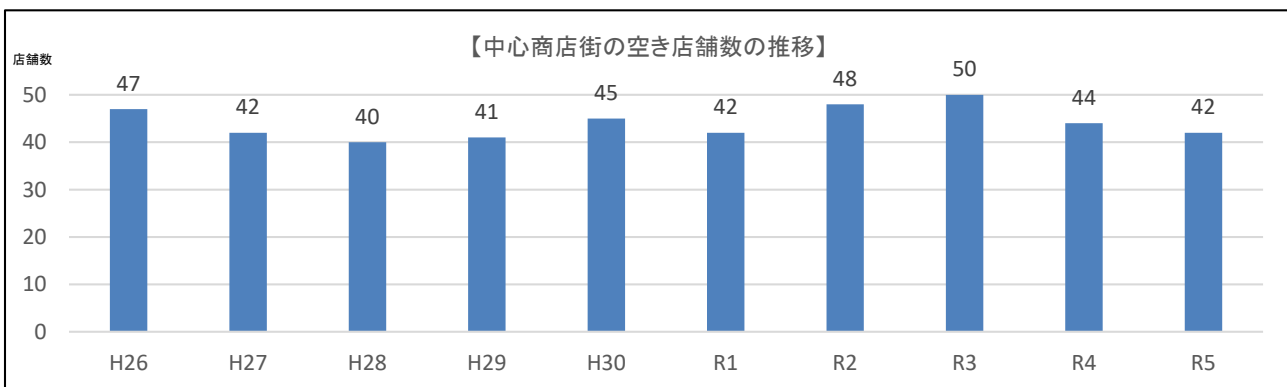
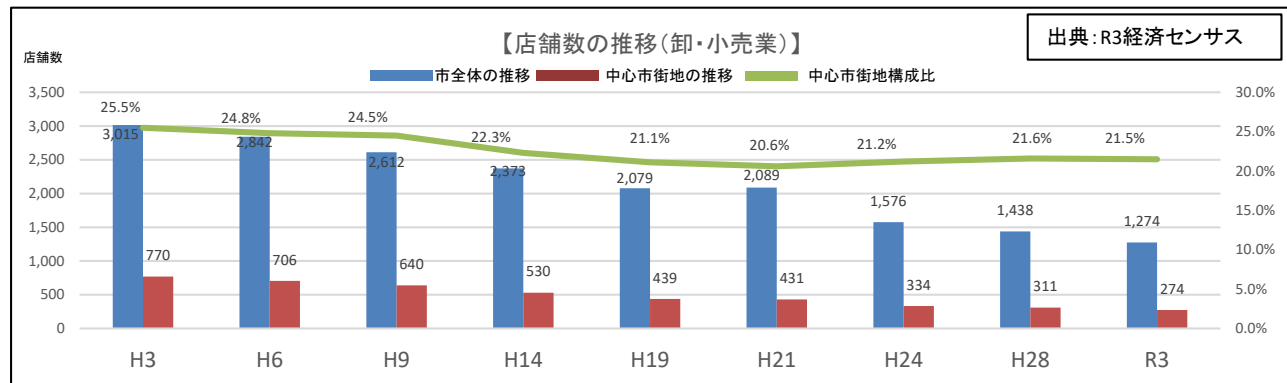
前期計画のまちなか居住整備事業が未実施となったことで、まちなかへの居住誘導が進まなかったことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響でライフスタイルの変化やイベント等の自粛により、市民の外出の機会や観光客が減少したことなどから通行量も減少したと考えられる。



【目標指標】商店街の空き店舗数

【目標】29店舗 【実績】44店舗 【未達成】

鶴岡市全域及び中心市街地ともに店舗数は減少傾向にある。10年間で市全域では約19%、中心市街地では約18%減少している。空き店舗数はコロナ禍において増加傾向にあったが、令和4年から漸減しているものの、目標は達成できなかった。



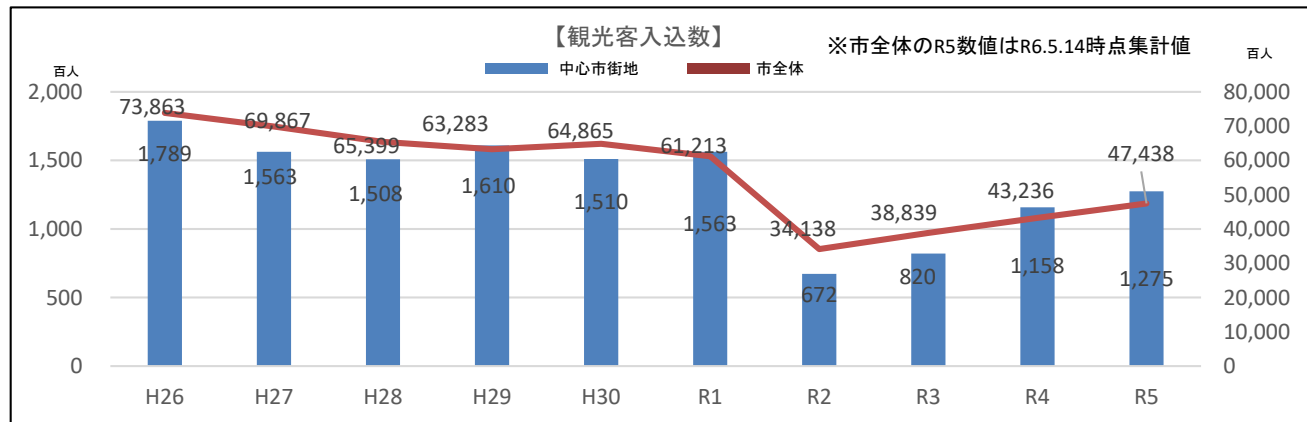
(3) まちなか観光の振興

【目標指標】主要観光施設入込客数

【目標】161,800人/年 【実績】115,800人/年 【未達成】

新型コロナウイルスの影響で市全体の観光客数が激減する中、中心市街地を訪れる観光客数も同様であるが、令和3年からは回復基調にある。

しかし、市全体、中心市街地いずれもコロナ以前の水準までに戻っていない状況である。



鶴岡市中心市街地活性化基本計画の評価等を行うための市民意識調査

前期計画最終年度の令和4年度に、計画期間終了時点の取組状況を評価する最終フォローアップのため、意識調査を実施した。

【調査日】令和5年1月10日～2月8日

【調査方法】WEBアンケートのほか、市民2,000人を無作為抽出しアンケートを郵送（いずれも対象は満16歳以上）

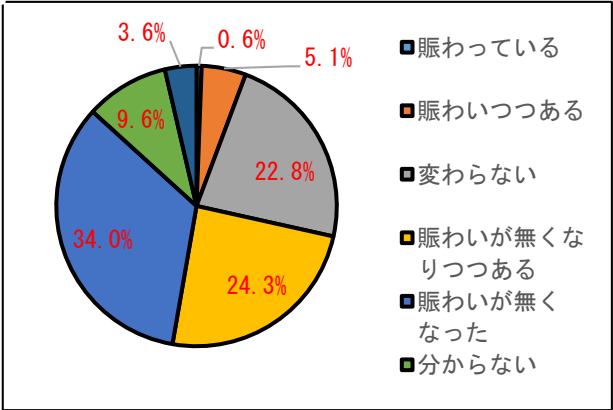
【回答者数】1,018人

計画策定前と比べて「中心市街地全体について感じることを教えてください」の設問では、「賑わっている」「賑わいつつある」との回答が5.7%、「変わらない」が22.8%、「賑わいが無くなりつつある」、「賑わいが無くなった」との回答が約58.3%という結果であった。なお、年齢が上がるほど、賑わいが無くなりつつある、なくなったと答えた方の割合が増える傾向が強かった。また、「計画策定前と比べて中心市街地全体を訪れる回数はかわりましたか」の設問では、「増えた」が5.7%、「変わらない」が40.3%、「減った」が47.5%という結果で、約半数の方が減ったと答えており、新型コロナウイルス感染症の影響により市民が外出を控えたこと、また感染拡大対策として各種イベントを中止したことが影響し、中心市街地を訪問する機会の減少に繋がったものと考えられる。

一方で、「計画策定前と比べた中心市街地の印象、評価についてあてはまるものを選んでください」の設問では、「歴史・文化がある」、「ゴミなどがなくきれい」、「街並みや景観がきれい」などの回答が多く、これまでの取組みの評価に繋がる意見も多く見られた。

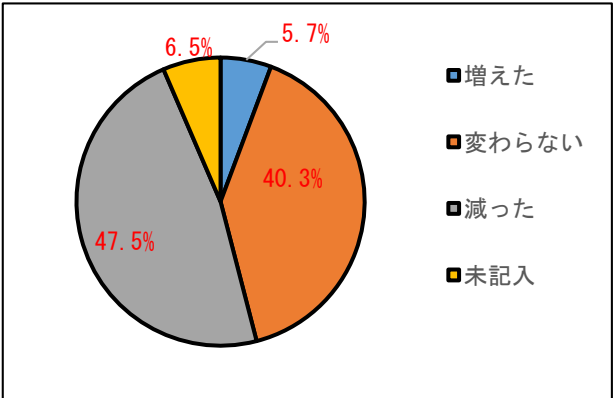
【中心市街地の賑わいの評価（平成29年頃との比較）】

項目	内訳	割合
賑わっている	6	0.6%
賑わいつつある	52	5.1%
変わらない	232	22.8%
賑わいが無くなりつつある	247	24.3%
賑わいが無くなった	346	34.0%
分からない	98	9.6%
未記入	37	3.6%
合計	1,018	100.0%



【中心市街地を訪れる回数（平成29年頃との比較）】

項目	内訳	割合
増えた	58	5.7%
変わらない	410	40.3%
減った	484	47.5%
未記入	66	6.5%
合計	1,018	100.0%



3. 鶴岡市中心市街地将来ビジョンの策定（令和6年3月）

○ビジョン策定の目的

市民・事業者・行政が「ありたいまちの将来の姿」について共通認識を持ち、都市経営の課題達成に連携して取り組むため。

○中心市街地の重要性と活性化の意義

- ▽経済・サービスを生み出す都市部と、農林業・水産業の基盤ともなっている郊外部は相互に支えあっている関係にあり両立が必須。
- ▽歴史的経緯からも中心市街地は広大な市域の中核をなすエリアであり、人口密度を高めて公共・民間それぞれの機能を維持・拡充していくことが重要。

市民ワークショップ

民間事業者ヒアリング

アンケート

まちづくりのランドデザイン策定

「鶴岡市中心市街地将来ビジョン」

キャッチフ	できる うみだす あなたのまちなか				
ありたいまちの姿	①賑わい	②居場所	③観光	④居住	⑤移動
	「おいしい」「たのしい」ができるまち	私のお気に入りの場所を見つけることができるまち	城下の歴史や食を巡る「まち歩き」ができるまち	広い空の下で安心・快適に暮らすことができるまち	気軽におでかけできるまち
まちづくりの方針	まちなかに、食文化創造都市ならではの多彩な催しと、「ひと中心」の魅力あふれる通り・広場・店舗を生み出します。	まちなかに、多様な目的で滞在でき、学び・探求・創造性と交流を育む市民の拠点を生み出します。	まちなかに、酒井家庄内入部からの重層的な地域資源等を活用して一日中楽しめる観光エリアを生み出します。	まちなかに、良好な景観を維持し、災害に強く、多様なライフスタイルやライフステージに応じた「こどもまんなか」と脱炭素の居住環境を生み出します。	まちなかに、安全快適な歩行者・自転車空間や、便利な公共交通等によるアクセス環境を生み出します。
想定する取組例	【主要な取組】 地域の魅力を高める企業・店舗等を誘導する仕組の構築	【主要な取組】 新図書館の整備など、人がつながる場となる施設の整備	【主要な取組】 鶴岡公園周辺の観光資源と商店街との回遊性を高める歩行者空間の整備	【主要な取組】 空き家・空き地の流動化により多様な住居の選択肢を提供する仕組の構築	【主要な取組】 市内循環バスを核とした公共交通の利用促進

4. 目標指標の設定

第3期鶴岡市中心市街地活性化基本計画目標指標

「鶴岡市中心市街地将来ビジョン」で定める5つの「まちづくりの方針」に沿った目標と、その達成状況を測るため、7つの目標指標を設定します。

①賑わい 【目標】 まちなかの賑わい創出

目標指標1 新規出店・立地数

まちづくりの方針を「まちなかに、食文化創造都市ならではの多彩な催しと、“ひと中心”の魅力あふれる通り・広場・店舗を生み出します。」としており、特に地域の魅力を高める企業・店舗等の誘導が重要であることから、「新規出店・立地数」を目標指標とする。

目標指標2 自転車歩行者通行量

まちづくりの方針を「まちなかに、食文化創造都市ならではの多彩な催しと、“ひと中心”の魅力あふれる通り・広場・店舗を生み出します。」としており、広場等を活用した賑わいイベントが通年・多発的に開催され、まちなかが人で賑わうことが重要であることから、まちなかに市民が足を運ぶ施策の成果を測るため「自転車歩行者通行量」を目標指標とする。

②居場所 【目標】 まちなかの居場所づくり

目標指標3 主要施設の来館者数

まちづくりの方針を「まちなかに、多様な目的で滞在でき、学び・探求・創造性と交流を育む市民の拠点を生み出します。」としており、特に人と人がつながる場となる施設の整備が重要であることから、「主要施設（鶴岡Dada、駅前マリカ東館2階）の来館者数」を目標指標とする。

③観光 【目標】 まちなかの観光振興

目標指標4 主要施設の観光入込客数

まちづくりの方針を「まちなかに、酒井家庄内入部からの重層的な地域資源等を活用して一日中楽しめる観光エリアを生み出します。」としており、鶴岡公園周辺の観光施設等を活用した観光事業の磨き上げによる誘客施策が重要であることから、「主要な観光施設入込客数」を目標指標とする。

④居住 【目標】 まちなかの居住促進

目標指標5 転入者数（転居者含む。）

まちづくりの方針を「まちなかに、良好な景観を維持し、災害に強く、多様なライフスタイルやライフステージに応じた「こどもまんなか」と脱炭素の居住環境を生み出します。」としており、特に空き家・空き地の流動化により多様な住居の選択肢の提供が重要であることから、その成果を測るため「転入者数」を目標指標とする。

目標指標6 新築戸数

まちづくりの方針を「まちなかに、良好な景観を維持し、災害に強く、多様なライフスタイルやライフステージに応じた「こどもまんなか」と脱炭素の居住環境を生み出します。」としており、地域経済効果が大きい戸建て需要に応える取組が重要であることから、その成果を測るため「新築戸数」を目標指標とする。

⑤移動 【目標】 まちなかの公共交通の利用促進

目標指標7 主要なバス停の乗降者数

まちづくりの方針において「まちなかに、安全快適な歩行者・自転車空間や、便利な公共交通等によるアクセス環境を生み出します。」としていることから、公共交通の利便性を高め利用者数の増加を図ることが重要であるため、「主要なバス停の乗降者数」を目標指標とする。

5. 目標値の設定

本目標値は現時点での仮設定であり、今後個別事業の具体化を受けて精査するものです。

第3期鶴岡市中心市街地活性化基本計画目標指標に設定する目標値

①賑わい

目標指標1 新規出店・立地数

空き店舗等を活用して、年間11店舗の新規出店や創業を促進し、5か年で累計55店舗の開業を図る。

基準値 (令和5年)	推計値 (令和11年)	目標値 (令和11年)
10店舗/年	10店舗/年	11店舗/年
	累計 50店舗	累計 55店舗

目標指標2 自転車歩行者通行量

イベントでのまちなかの賑わい創出や、空き店舗解消による商店街の活性化で自転車歩行者など来街者の増加を図る。

基準値 (令和5年)	推計値 (令和11年)	目標値 (令和11年)
2,853人	2,863人	3,076人

※観測地点：銀座通り、駅前通り、南銀座通り、日吉通り、山王通り、みゆき通り

②居場所

目標指標3 主要施設の来館者数

市民の居場所づくりとして、銀座地区のDadaや駅前マリカ東館を活用した多様な取組により、新たな交流を生み出し来館者の増加を図る。

基準値 (令和5年)	推計値 (令和11年)	目標値 (令和11年)
19,485人/年	18,416人/年	22,696人/年

③観光

目標指標4 主要施設の観光入込客数

中心市街地の観光施設と商店街の周遊性向上や、情報発信強化、環境整備などにより、主要な観光施設の入込客数増加を図る。

基準値 (令和5年)	推計値 (令和11年)	目標値 (令和11年)
127,500人/年	127,500人/年	156,300人/年

※対象施設：観光案内所（2か所）、旧藩校致道館、致道博物館、大宝館、
庄内神社宝物殿、藤沢周平記念館、旧風間家住宅丙申堂

④居住

目標指標5 転入者数（転居者含む。）

基準値 (令和5年)	推計値 (令和11年)	目標値 (令和11年)
345人/年	344人/年	365人/年

目標指標6 新築戸数

ランドバンク事業、住宅リフォーム事業や居住環境整備の支援などにより、まちなか居住を推進する。

基準値 (令和5年)	推計値 (令和11年)	目標値 (令和11年)
14戸/年	19戸/年	24戸/年

⑤移動

目標指標7

主要なバス停の乗降者数

バスに関する情報発信の強化や、バス停の高質化等利便性の向上により、バス利用者数の増加を図る。

基準値 (令和5年)	推計値 (令和11年)	目標値 (令和11年)
113,969人/年	113,969人/年	126,845人/年

※対象バス停：鶴岡駅前、鶴岡市役所前、市役所東、山王町、銀座通り、本町川端通り

6. 中心市街地活性化のための事業（全35事業のうち主要な事業のみ掲載）

①賑わい 【21事業】

目標指標 1

新規出店・立地数

★主要事業

①公民共創のまちづくり推進事業

中心市街地活性化にあたっては、多くの住民・事業主・地権者等が関わり合いながら主体的にまちづくりを進める「エリアマネジメント」の手法により、エリアごとの特色づくりや合意形成を図ることとし、エリアマネジメント組織設立やエリアマネージャー配置を含めて公民で検討していく。

□ソフト事業

▽店舗改修等支援事業

③チャレンジショップ事業

⑥空き店舗解消リフォーム補助事業

▽創業支援事業

⑦新規創業促進助成金事業

事業立ち上げに要する費用を支援する。

目標指標 2

自転車歩行者通行量

■ハード事業

▽道路整備等アクセシビリティ向上に関する事業

②中心市街地交通規制対策事業 一方通解除

- ・一日市通り
- ・川端通り
- ・大泉橋交差点
- ・千歳通り

⑧都市計画道路鶴岡駅錦町線 歩行者回遊空間整備事業

⑩銀座通り街路整備検討事業 (歩行者回遊空間整備事業)

⑪三日町口通り街路整備事業 (歩行者回遊空間整備事業)

□ソフト事業

▽まちなかのイベント支援事業

⑫鶴岡市中心市街地賑わい 創出支援事業（補助事業）

⑬まちなか賑わい創出事業 (委託事業)

②居場所 【2事業】

目標指標 3

主要施設利用者数

★主要事業

■ハード事業

⑭マリカ東館再整備事業

令和5～8年度の若者の居場所づくりの社会実験を基に、高校生などのサードプレイスとして2階フロアを再整備する。

□ソフト事業

⑮鶴岡まちづくりブランディング事業

銀座通りの鶴岡Dadaを活用したまちづくりのブランド化。

④居住 【6事業】

目標指標 5 転入者数

(転居者含む。)

★主要事業

⑯ランド・バンク事業

空き家、空き地、狭あい道路問題を一体的に解決し、住民の利便性向上につながる私道等の整備にかかる費用を助成する。

□ソフト事業

▽住宅の増改築等支援事業

⑰鶴岡市住宅リフォーム支援事業

▽居住環境整備事業

⑲中心市街地居住促進事業

目標指標 6 新築戸数

★主要事業

⑯ランド・バンク事業【再掲】

⑲中心市街地居住促進事業【再掲】

③観光 【12事業】

目標指標 4

主要施設の観光入込客数

★主要事業

⑮観光資源・コンテンツ磨き上げ事業

中心市街地と集客力の高い郊外地の観光施設（荘内神社、出羽三山神社、善寶寺）が連携した観光コンテンツの提供。

■ハード事業

▽観光環境整備

⑳景観まちづくり事業

看板等サインの整備。

□ソフト事業

▽観光情報発信事業

⑯鶴岡型DMO事業（DEGAM）

⑰観光案内所運営事業

⑳インバウンド観光促進事業

㉑中心市街地観光周遊促進事業

⑤移動 【4事業】

目標指標 7

主要なバス停の乗降者数

★主要事業

㉒モビリティ・マネジメント事業

バスの乗り方教室の拡充により利用者の増加を図る。

あわせて乗降調査を実施し、ICカード乗降データからは読み取ることのできない利用者の属性を明らかにする。

■ハード事業

▽バス路線環境整備事業

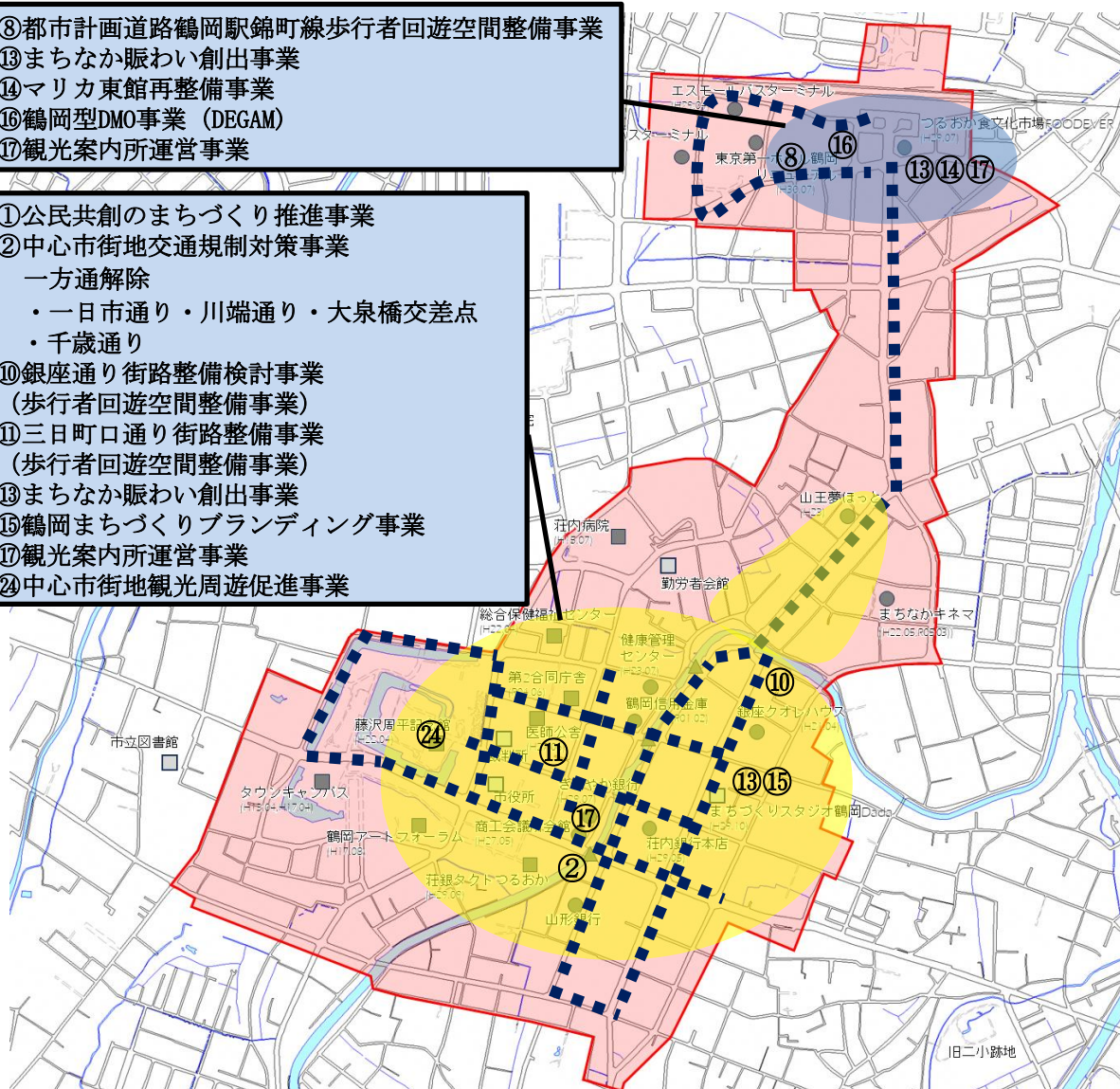
㉓バス停留所高質化事業

バス路線付近の公共施設等の待合室の環境整備やバス停修繕。

7. 事業実施箇所図

- ⑧都市計画道路鶴岡駅錦町線歩行者回遊空間整備事業
- ⑬まちなか賑わい創出事業
- ⑭マリカ東館再整備事業
- ⑯鶴岡型DMO事業（DEGAM）
- ⑰観光案内所運営事業

- ①公民共創のまちづくり推進事業
- ②中心市街地交通規制対策事業
 - 一方通解除
 - ・一日市通り・川端通り・大泉橋交差点
 - ・千歳通り
- ⑩銀座通り街路整備検討事業（歩行者回遊空間整備事業）
- ⑪三日町口通り街路整備事業（歩行者回遊空間整備事業）
- ⑬まちなか賑わい創出事業
- ⑮鶴岡まちづくりブランディング事業
- ⑰観光案内所運営事業
- ⑲中心市街地観光周遊促進事業



8. 推進体制

鶴岡市中心市街地活性化協議会の概要

平成20年6月23日に、鶴岡商工会議所及び一般財団法人鶴岡市開発公社（中心市街地整備推進機構）は、中心市街地の活性化に関する法律に基づき、鶴岡市中心市街地活性化協議会を設立している。協議会は事務局を鶴岡商工会議所におき、鶴岡市が作成する中心市街地活性化基本計画並びに認定基本計画及びその実施に関し必要な事項についての意見提出、鶴岡市中心市街地の活性化に係る総合調整、委員相互の意見及び情報交換、調査研究の実施、活動の企画及び実施他を行うもの。

協議会の構成員

【委員】鶴岡商工会議所、（一財）鶴岡市開発公社、NPOつるおかランド・バンク、鶴岡TMO運営会議、㈱庄交コーポレーション、鶴岡商店会連合会、庄内交通㈱、（一社）DEGAM鶴岡ツーリズムビューロー、鶴岡市（商工観光部、建設部）、鶴岡青年会議所、（社）山形県建設業協会鶴岡支部、（社）山形建築士会鶴岡田川支部

【オブザーバー】早稲田大学研究院、東北経済産業局、東北地方整備局、山形県庄内総合支庁（産業経済部、建設部）、中小企業基盤整備機構

基本方針

賑わい

「おいしい」「たのしい」ができるまち

目標指標
の考え方

中心市街地将来ビジョン・まちづくりの方針において「まちなかに、食文化創造都市ならではの多彩な催しと、“ひと中心”の魅力あふれる通り・広場・店舗を生み出します。」としていることから、【賑わい】を測る目標指標の一つを「新規出店・立地数」とする。
「新規出店・立地数」の目標値を達成するためには、地域の魅力を高める企業・店舗等の誘導などが重要となる。

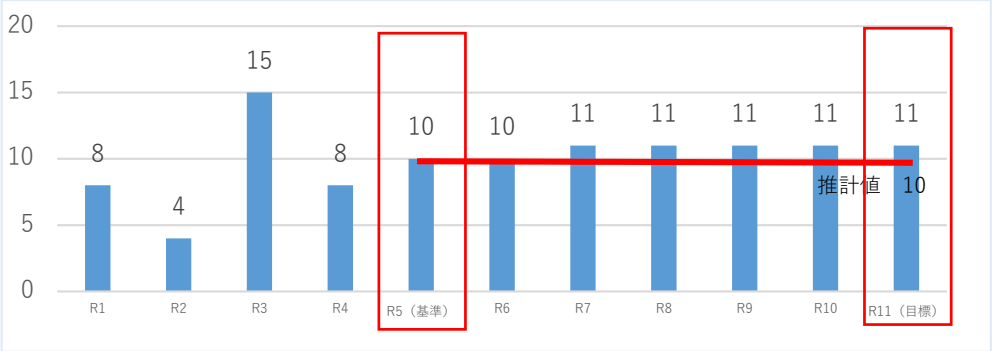
目標指標数値

【基準値】
10店舗/年
(R5実績)

【推計値】
10店舗/年
(①+②+③+④)
累計 50店舗

【目標値】
11店舗/年
(推計値+⑤)
累計 55店舗

算定根拠



出店内訳	R1	R2	R3	R4	R5
チャレンジショップ	3	1	2	0	2
空き店舗リフォーム	0	0	0	1	1
新規創業支援	-	-	7	3	3
施策外	5	3	6	3	4
合計	8	4	15	7	10

○既存事業

①チャレンジショップ事業 R1～5平均店舗数 2店舗

②空き店舗解消リフォーム事業 R4～5平均店舗数 1店舗
(R3以前実績無)

③新規創業支援事業 R4～5平均数 3店舗
(R3開始事業。初年度は実績が突出しているため考慮しない)

④施策によらない出店舗数 R1～5平均店舗数 4店舗
【推計値】 ①+②+③+④=合計 10店舗

○新規事業

⑤公民共創のまちづくり推進事業
エリアマネジメントの事業効果 1店舗
【目標値】 ①+②+③+④+⑤=合計 11店舗

目標指標② 自転車歩行者通行量（主担当課 商工課）

基本方針

賑わい

「おいしい」「たのしい」ができるまち

目標指標
の考え方

中心市街地将来ビジョン・まちづくりの方針において「まちなかに、食文化創造都市ならではの多彩な催しと、“ひと中心”の魅力あふれる通り・広場・店舗を生み出します。」としていることから、【賑わい】を測る目標指標の一つを「自転車歩行者通行量」とする。
「自転車歩行者通行量」の目標値を達成するためには、通り・広場を会場とした通年イベントへの支援などが重要となる。なお、この目標指標は前期計画からの継続である。

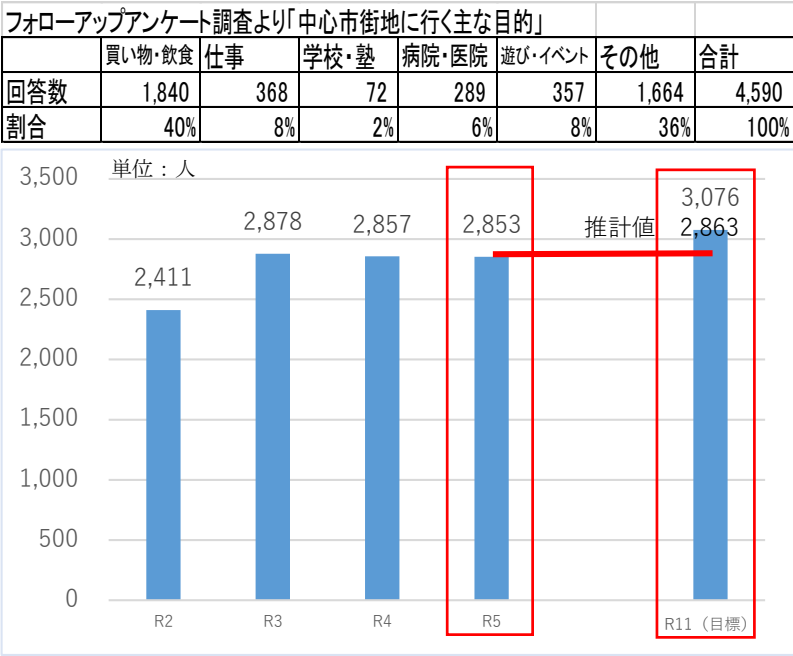
目標指標数値

算定根拠

【基準値】
2,853人
(R5実績)

【推計値】
2,863人
(R3～5平均)

【目標値】
3,076人
(推計値+
①+②+③)



- ①新規出店による事業効果 63人
R3中心市街地総店舗数と自転車歩行者通行量から算出
- ・ 1日あたりの自転車歩行者量 2,878人 (R3)
 - ・ 中心市街地総店舗数 274店舗 (R3)
 - ・ 増加店舗数 3店舗
11店舗 (出店目標値) - 8店舗 (H31～R5閉店平均) = 3店舗
 - ・ 1店舗当たりの来店者 (推定値)
 $(2,878人 \times 40\% (※)) \times ((3店舗 / 274店舗) \times 5年) \div 63人$
- ※フォローアップアンケートの来街目的が「買い物、飲食」の割合。
- ②観光関連の事業効果 79人
【156,300人 (目標値) - 127,500人 (現状値)】 / 365日 $\div$ 79人
- ③公共交通関連の事業効果 71人
126,845人 (目標値) - 113,969人 (現状値) / 365日 $\times$ 2回 $\div$ 71人
- 【目標値】 推計値+①+②+③=3,076人

目標指標③ 主要施設の来館者数（主担当課 都市計画課）

基本方針

居場所

私のお気に入りの場所を見つけることができるまち

目標指標
の考え方

中心市街地将来ビジョン・まちづくりの方針において「まちなかに、多様な目的で滞在でき、学び・探求・創造性と交流を育む市民の拠点を生み出します。」としていることから、【居場所】を測る目標指標を「主要施設の来館者数」とする。
「主要施設の来館者数」の目標値を達成するためには、人がつながる場となる施設の整備などが重要となる。

目標指標数値

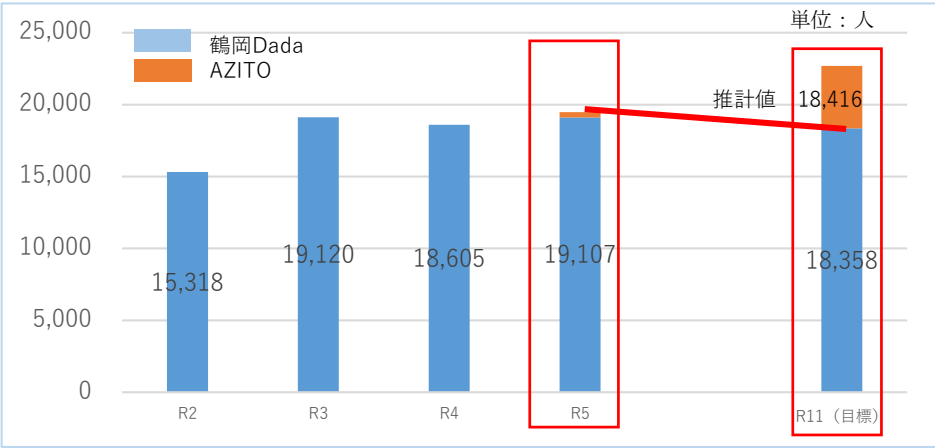
算定根拠

【基準値】
19,485人/年
(R5実績)

【推計値】
18,416人/年
(R2～5 Dada
利用者平均数+
R5利用者数合計)

【目標値】
22,696人/年

施設名	R2	R3	R4	R5	R11(目標)
鶴岡Dada	15,318	19,120	18,605	19,107	18,358
Azito				378	4,338
合計	15,318	19,120	18,605	19,485	22,696



①マリカ東館再整備事業効果 3,960人
高校生を主なターゲットとした活動拠点を常時開所させ、現在FOODEVERの滞在している高校生の7割を誘導する。
16人/日（FOODEVER滞在高校生等の数）×0.7
≒ 11人（1日の来館者数）
11人×360日（年末年始休館を除く開所日数）＝3,960人
②鶴岡まちづくりブランディング事業効果 320人
Ⅰ. 広場利用促進（毎月2回実施）
10人×12月×2回＝240人
Ⅱ. 高校生まちづくり活動 20人×4回＝80人
Ⅰ＋Ⅱ＝320人

【目標値】
推計値+①+②＝22,696人/年

目標指標④ 主要観光施設入込客数（主担当課 観光物産課）

基本方針

観光

城下の歴史や食を巡る「まちあるき」ができるまち

目標指標
の考え方

中心市街地将来ビジョン・まちづくりの方針において「まちなかに、酒井家庄内入部からの重層的な地域資源等を活用して一日中楽しめる観光エリアを生み出します。」としていることから、【観光】を測る目標指標を「主要な観光施設入込客数」とする。
「主要な観光施設入込客数」の目標値を達成するためには、回遊性を高める歩行者空間の整備や、外国人等旅行者受け入れ促進に向けた環境整備などが重要となる。なお、この目標指標は前期計画からの継続である。

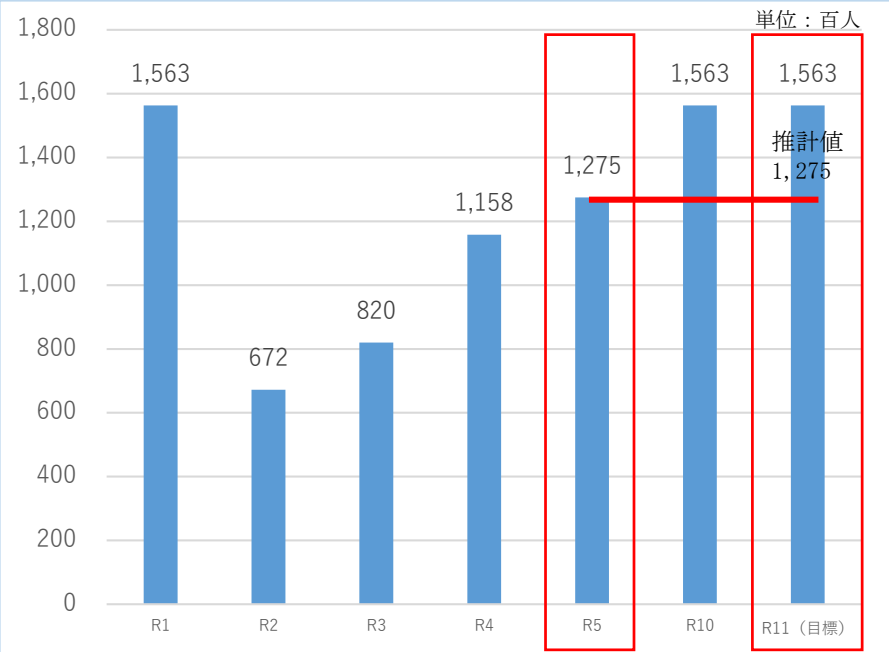
目標指標数値

算定根拠

【基準値】
127,500人/年
(R5実績)

【推計値】
127,500人/年
(R5実績が推計値)

【目標値】
156,300人/年
(R1実績)



上位計画である鶴岡市中期観光戦略プラン（※）から中心市街地の目標値を算出。
※R6～R10の5か年で観光入込客数を令和元年度の水準とする。
プラン上の基準値は1,158千人（R4）。

単位：百人

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R10	R11(目標)
市全域	61,213	34,138	38,839	43,236	47,438	61,213	61,213
中心市街地	1,563	672	820	1,158	1,275	1,563	1,563

・観光ガイドや案内マップの充実による受入環境整などの市街地観光促進の取組や、市街地と市街地以外の主要観光地を結ぶ観光ルートの構築等の取組により、R6～R10の5か年で約4万人、各年度8千人の入込増を目標とし、目標年度のR11も同水準を維持する。

【目標値】115,800人+40,500人=156,300人

目標指標⑤ 転入者数（転居者含む。）（主担当課 都市計画課）

基本方針

居住

広い空の下で安心・快適に暮らすことができるまち

目標指標
の考え方

中心市街地将来ビジョン・まちづくりの方針において「まちなかに、良好な景観を維持し、災害に強く、多様なライフスタイルやライフステージに応じた「こどもまんなか」と脱炭素の居住環境を生み出します。」としていることから、【居住】を測る目標指標の一つを「転入者数（転居者含む。）」とする。
「転入者数（転居者含む。）」の目標値を達成するためには、多様な住居の選択肢の提供などが重要となる。

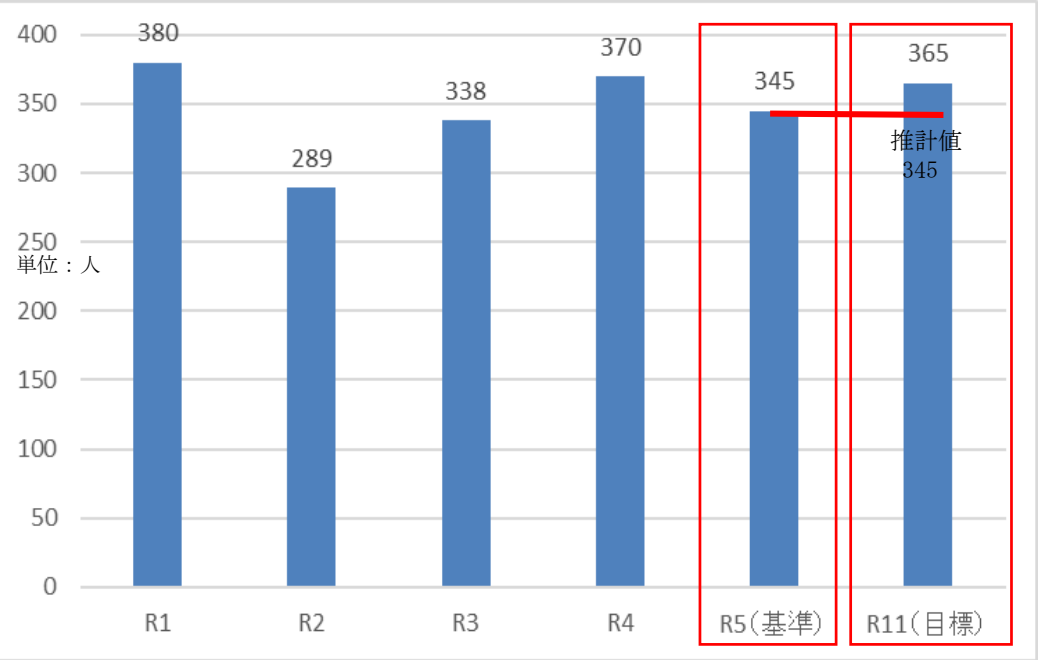
目標指標数値

算定根拠

【基準値】
345人/年
(R5実績)

【推計値】
344人/年
(R1～5平均)

【目標値】
365人/年
(推計値+①+②
+③+④)



- ①ランド・バンク事業効果 12人
1件×4区画（※1）×2.95人
÷12人
※1 令和5年度小規模区画再編事業実績
- ②中心市街地居住促進事業効果 3人
1件×2.95人÷3人 補助要件見直しによる効果
- ③空き家バンク事業 3人
1件×2.95人÷3人
- ④鶴岡市住宅リフォーム支援事業効果 3人
1件×2.95人÷3人

H30住宅・土地統計調査
一戸建て平均世帯人数：2.95人

【目標値】推計値+①+②+③+④÷合計 365人

目標指標⑥ 新築戸数（主担当課 都市計画課）

基本方針

居住

広い空の下で安心・快適に暮らすことができるまち

目標指標
の考え方

中心市街地将来ビジョン・まちづくりの方針において「まちなかに、良好な景観を維持し、災害に強く、多様なライフスタイルやライフステージに応じた「こどもまんなか」と脱炭素の居住環境を生み出します。」としていることから、【居住】を測る目標指標の一つを「新築戸数」とする。
「新築戸数」の目標値を達成するためには、狭あい道路解消等を図る小規模区画再編の推進などが重要となる。

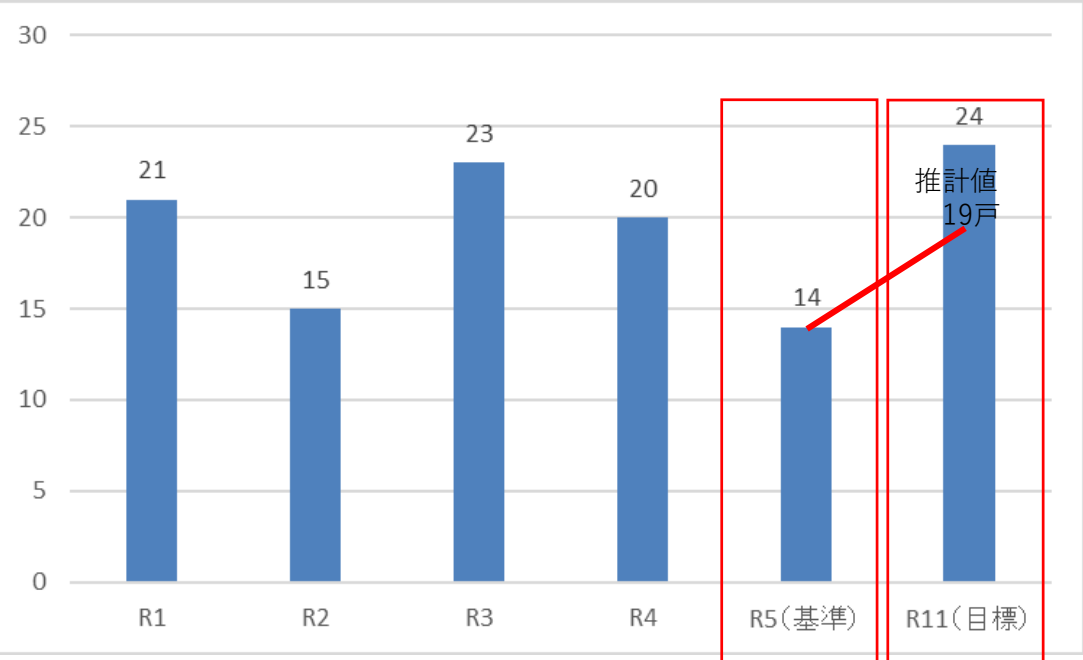
目標指標数値

算定根拠

【基準値】
14戸/年
(R5実績)

【推計値】
19戸/年
(R1～5平均)

【目標値】
24戸/年
(推計値+①+②)



①ランド・バンク事業効果 4戸
1件×4区画（※1）＝4戸
※1 令和5年度小規模区画再編事業実績

②中心市街地居住促進事業効果 1戸
補助要件見直しによる効果

【目標値】 推計値+①+②＝合計 24戸

目標指標⑦ 主要なバス停の乗降者数（主担当課 地域振興課）

基本方針

移動

気軽におでかけできるまち

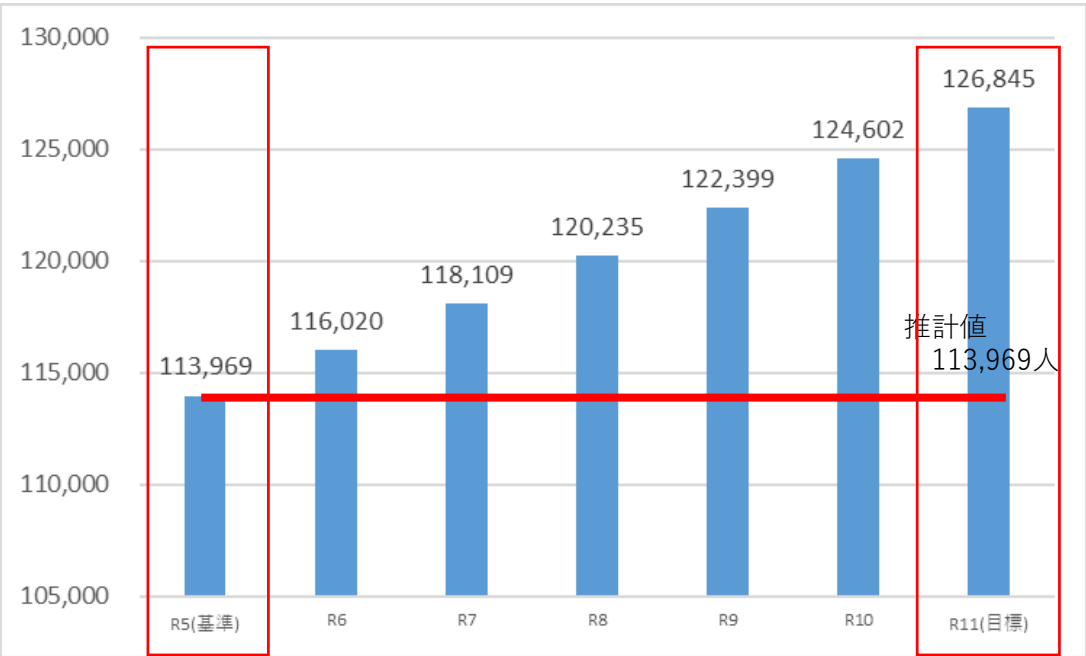
目標指標
の考え方

中心市街地将来ビジョン・まちづくりの方針において「まちなかに、安全快適な歩行者・自転車空間や、便利な公共交通等によるアクセス環境を生み出します。」としていることから、【移動】を測る目標指標の一つを「主要なバス停の乗降者数」とする。「主要なバス停の乗降者数」の目標値を達成するためには、市内循環バスを核とした公共交通の利用促進などが重要となる。

目標指標数値

算定根拠

- 【基準値】
113,969人/年
(R5実績)
- 【推計値】
113,969人/年
(R5実績が推計値)
- 【目標値】
126,845人/年



- 【推計値】
令和4年10月から市内循環バスの再編に取り組み、バス利用者数が増加している。しかし、利用者数の増加は鈍化していることから、令和5年度実績値を推計値とする。
- 【目標値】
循環バスマップを作成して、バス利用の周知を図った令和5年10月～令和6年3月のバス利用者数は1.8%増加している（7,339人/月→7,471人/月）。モビリティマネジメント事業効果により、同水準のバス利用者数の増加を目標とする。
 $R6 = 113,969 \text{人 (基準値)} \times 101.8\% \div 116,020 \text{人}$
 $R11 = 124,602 \text{人 (R10見込)} \times 101.8\% = 126,845 \text{人}$

キーワード		番号	2期 継続	事業名	所管課	内容	事業 区分	実施時期	目標指標	目標値の 算定区分	エリア	事業実施時期
正	副											
①賑わい		1		公民共創のまちづくり推進事業	商工課 商工会議所	中心市街地活性化にあたっては、多くの住民・事業主・地権者等が関わり合いながら主体的にまちづくりを進める「エリアマネジメント」の手法により、エリアごとの特色づくりや合意形成を図ることとし、エリアマネジメント組織設立やエリアマネージャー配置を含めて公民で検討。	ソフト	R7～R11	新規出店・立地数	積み上げ	銀座・山王周辺	R7以降事業
		2	○	中心市街地交通規制対策事業	土木課 都市計画課	一日市通りなどの一方通行解除。歩道整備、アクセス性向上。	ハード	H29～R9	自転車歩行者通行量	トレンド等	銀座周辺	既存事業
		3	○	チャレンジショップ事業	鶴岡TMO	中心商店街の空き店舗への出店者に対する店舗賃借料、店舗改装費、広告宣伝費の一部助成。	ソフト	H12～	新規出店・立地数	積み上げ	全体	既存事業
		4	○	イベント等支援事業	鶴岡TMO	山王ナイトバザールなど商店街等が実施するイベントへの助成。	ソフト	H13～	自転車歩行者通行量	トレンド等	全体	既存事業
		5	○	商店・商店街レベルアップ事業	鶴岡TMO	各個店の魅力向上や商店街の連携した取り組み等を支援。	ソフト	H13～	自転車歩行者通行量	トレンド等	全体	既存事業
		6	○	空き店舗解消リフォーム補助金事業	商工課	市内の空き家、空き店舗をリフォームし、創業を行う者の導入費用の支援。	ソフト	R元～	新規出店・立地数	積み上げ	全体	既存事業
		7		新規創業促進助成金事業	商工課	新規創業者の事業立ち上げの支援。	ソフト	R3～	新規出店・立地数	積み上げ	全体	既存事業
		8		都市計画道路鶴岡駅錦町線歩行者回遊空間整備事業	都市計画課	市道鶴岡駅錦町線の歩道幅員の拡幅工事による歩行者利便増進道路としての活用。	ハード	R5～R7	自転車歩行者通行量	トレンド等	駅前周辺	既存事業
		9		マリカ広場再整備事業	都市計画課	マリカ広場の活用促進と賑わいの創出のため、老朽化したマリカ広場の屋根の撤去も含めた再整備を行う。	ハード	R11～R15	自転車歩行者通行量	トレンド等	駅前周辺	R7以降事業
	③観光	10		銀座通り街路整備検討事業（歩行者回遊空間整備事業）	商工課 都市計画課 観光物産課	銀座通りの歩行者天国化や車道の1車線化による歩行者空間の再整備の検討。	ハード	R7～	自転車歩行者通行量	トレンド等	銀座周辺	R7以降事業
		11	○	三日町口通り街路整備事業（歩行者回遊空間整備事業）	都市計画課 土木課 観光物産課	市道荘内神社前大東町線の歩行者空間の整備。	ハード	R7～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	公園周辺	R7以降事業
		12		鶴岡市中心市街地賑わい創出支援事業	商工課	市内複数の事業者が中心市街地で実施する賑わいイベントを支援。	ソフト	R6～	自転車歩行者通行量	トレンド等	全体	R6新規事業
		13		まちなか賑わい創出事業	商工課	中心市街地の広場を利用したイベントの定期的、かつ多発的な実施の推進。	ソフト	R6～	自転車歩行者通行量	トレンド等	全体	R6新規事業
②居場所	①賑わい	14		マリカ東館再整備事業（AZITO）	都市計画課	マリカ東館2階の空き床を活用した高校生を対象にした居場所づくり。	ソフト	R5～	主要施設の来館者数	積み上げ	駅前周辺	既存事業
		15	○	鶴岡まちづくりブランディング事業（まちづくりスタジオ・鶴岡Dada）	鶴岡銀座商店街振興組合 都市計画課	まちづくりスタジオ鶴岡Dadaの活用。	ソフト	H28～	主要施設の来館者数	積み上げ	全体	R7以降事業
③観光		16	○	鶴岡型DMO事業（DEGAM）	DEGAM	中心市街地観光の情報発信。	ソフト	H28～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	全体	既存事業
		17	○	観光案内所運営事業	観光物産課	観光案内所2カ所の運営。	ソフト	H9～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	全体	既存事業
	①賑わい	18	○	まつり振興事業	観光物産課	鶴岡桜まつり、天神祭、荘内大祭、鶴岡冬まつり、日本海寒鰯まつり、庄内酒まつり、「鶴岡雛物語」等の開催。	ソフト	H28～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	公園周辺	既存事業
		19	○	城下町探訪＆グルメウォーク事業	商工会議所	歴史と食文化を楽しむことができるウォーキングイベントの開催によるまちなか観光の充実。	ソフト	H27～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	公園周辺	既存事業
		20	○	観光レンタサイクル事業	観光物産課	JR鶴岡駅前の観光案内所にて周遊の脚となる自転車の貸し出しを行う。	ソフト	H15～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	全体	既存事業
		21	○	インバウンド観光促進事業	観光物産課	①HP・SNSを活用した多言語での積極的な情報発信を実施する。 ②多言語に対応した観光ガイドの育成。	ソフト	H28～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	全体	既存事業
		22	○	景観まちづくり事業	観光物産課	サイン計画に基づく案内サイン看板の整備	ハード	R7～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	公園周辺	R7以降事業
		23		歴史的建造物活用支援事業	都市計画課	・エビスヤビルなどの維持活用に向けた調査検討 ・地権者と実現に向けた計画の策定や民間事業者の開発支援	ソフト	R7～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	その他	R7以降事業
		24		中心市街地観光周遊促進事業	観光物産課	①観光マップ、パンフレットの作成 ②観光ガイドを活用したまちなか観光の活性化 ③中心市街地の4つの観光施設を巡るお得な共通券の発行	ソフト	H30～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	全体	既存事業
		25		観光資源・コンテンツ磨きあげ事業	観光物産課 DEGAM 商工会議所	出羽三山神社、荘内神社、善賢寺連携事業など、中心市街地と郊外地の観光資源を結び付けた観光事業のブラッシュアップ。	ソフト	H28～	主要施設の観光入込客数	トレンド等	全体	既存事業
④居住		26	○	ランド・バンク事業	NPOつるおかランド・バンク 都市計画課	・小規模区画再編事業 ・空き家バンク事業 ・空き家委託管理事業	ソフト	H24～	新築戸数 転入者数（転居者含む。）	積み上げ	全体	既存事業
		27	○	鶴岡市住宅リフォーム支援事業	建築課	増改築工事又はリフォーム等工事に対し、補助金を交付する。中心市街地加算あり（20万円）。	ソフト	R6～	転入者数（転居者含む。）	積み上げ	全体	既存事業
		28		高度地区等規制検証事業	都市計画課	高度地区等の規制の緩和に向けた検証、緩和可能エリアの設定。	ソフト	R6～	新築戸数 転入者数（転居者含む。）	トレンド等	全体	R7以降事業
		29		中心市街地居住促進事業	都市計画課 建築課	スキーム全面見直しを検討。	ハード	R7～	新築戸数 転入者数（転居者含む。）	積み上げ	全体	R7以降事業
		30		まちなか投資促進事業（まちなか居住環境整備事業）	都市計画課	中心市街地における生活利便施設、居住施設等の賑わい施設整備において、民間事業者の投資を促進するため、調査、施設整備等に対する民間事業者への支援を行う。	ソフト	R7～	新築戸数 転入者数（転居者含む。）	トレンド等	全体	R7以降事業
		31		再生可能エネルギー設備導入支援事業	環境課	太陽光パネル等設置への補助。	ソフト	H25～	新築戸数 転入者数（転居者含む。）	トレンド等	全体	既存事業
⑤移動	①賑わい	32		モビリティ・マネジメント事業	地域振興課	・乗車情報の調査、事業検討。 ・バスの乗り方教室による啓発。	ソフト	R6～	主要なバス停の乗降者人数	トレンド等	全体	R6新規事業
		33		公共駐車場適正管理事業	都市計画課 契約管財課 社会教育課	中心市街地の駐車場のあり方の検討と再整備、駐車場空き状況のICTを活用したシステム化。	ハード	R7～	主要なバス停の乗降者人数	トレンド等	全体	R7以降事業
		34		バス停留所高質化事業	地域振興課	既存バス待合所の修繕、利便性の向上、既存の建物や店舗を活用した待合環境の整備。	ソフト	R7～	主要なバス停の乗降者人数	トレンド等	全体	R7以降事業
		35		鶴岡駅前公共自転車駐車場再整備事業	都市計画課	駐輪場改修、無償化によりバス利用への誘導。	ハード	R7～	主要なバス停の乗降者人数	トレンド等	駅前周辺	R7以降事業

中心市街地活性化基本計画(令和7～11年度)

○目標指標

新規出店・
立地数

将来ビジョン

○想定する 取組例

地域の魅力を
高める企業・
店舗等を誘導
する仕組の構
築

○主要な事業概要

①公民共創のまちづくり推進事業

新規！

エリアマネジメント手法によるエリアごとの特色づくりなどを図るため、公民連携してエリアマネジメント組織設立やエリアマネージャーの配置を検討し、住民、事業主等と連携したまちづくりの仕組みを構築する。

③チャレンジショップ事業（実施主体：鶴岡TMO(鶴岡商工会議所)）

既存

中心商店街の空き店舗への出店者に対する店舗賃借料、店舗改装費、広告宣伝費の一部を助成する。

- ・ 助成額...店舗・駐車場賃借料 対象経費の1/2（上限月額5万円）
 店舗改装費 対象経費の1/2（上限50万円）
 広告宣伝費 対象経費の1/2（上限10万円）
- ・ 実績...件数 3件、交付額 1,650千円（R5）

⑥空き店舗解消リフォーム補助金事業（実施主体：市）

既存

事業者等が新規開業するために空き家や空き店舗の改装する際に要する費用を補助する。

- ・ 助成額...対象経費の1/2（上限 50万円）
- ・ 実績...1件 500千円（R5 中心市街地分のみ抜粋）

⑦新規創業促進助成金事業

既存

新規創業者の事業立ち上げに要する費用を補助する。

- ・ 助成額...対象経費の2/3（上限 個人30万円、法人50万円）
- ・ 実績...件数 3件、交付額 904千円（R5中心市街地分のみ抜粋）



中心市街地活性化のための事業 ①賑わい

中心市街地活性化基本計画(令和7～11年度)

○目標指標

自転車歩行者
通行量

将来ビジョン

○想定する 取組例

地域の魅力を
高める企業・
店舗等を誘導
する仕組の構
築

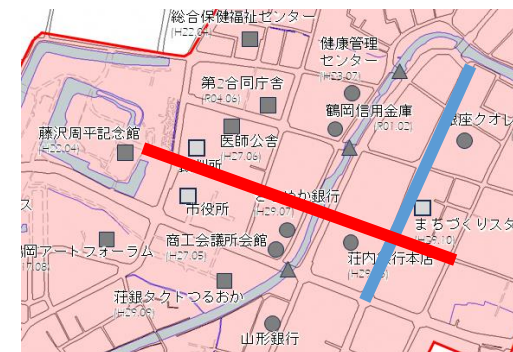
○主要な事業概要

- ④イベント等支援事業（実施主体：鶴岡TMO（鶴岡商工会議所）） 既存
- 中心市街地の商店街等が実施する賑わいを創出する事業に要する費用を助成する。
- ・助成額…商店街イベント支援事業 対象経費の1/2
商店街等団体連携イベント支援事業 対象経費の2/3
 - ・実績…件数 36件、交付額 3,538千円（R5）



- ⑫鶴岡市中心市街地賑わい創出支援事業（実施主体：市） 令和6年度開始事業
- 民間団体等が中心市街地内で実施する賑わいを創出するイベントに要する費用を助成する。
- ・助成額…対象経費の1/2（上限10万円）

- ⑩銀座通り街路整備検討事業（歩行者回遊空間整備事業）
- ⑪三日町口通り街路整備事業（歩行者回遊空間整備事業） 新規！
- 銀座通り（南北）を縦軸、三日町口通り（東西）を横軸としたまちなかの賑わい創出と、回遊性に繋がる主軸を整備する。
- ・銀座通り
令和9年度予定の川端通り対面通行化により通過交通処理が可能となることに伴い、銀座通りを歩行者が安全で快適に歩けるストリート（プロムナード化）にするため、再整備を検討する。
 - ・三日町口通り
荘内神社の参道にあたる三日町口通りを歩行者が安全で快適に歩けるストリート（プロムナード化）にするため、再整備を検討する。



中心市街地活性化のための事業 ②居場所

中心市街地活性化基本計画(令和7～11年度)

○目標指標

主要施設の来館者数

将来ビジョン

○想定する取組例

新図書館の整備など、人がつながる場となる施設の整備

○主要な事業概要

・新図書館整備事業

新規！

本事業については今年度基本構想を取りまとめることとしており、事業の概要が未定であるため本計画への事業としての掲載は見送り、本文中への記載に留めるもの。

今後策定される基本構想、基本計画において中心市街地への立地等が明確になれば本計画を変更し、事業掲載していきたい。

⑭マリカ東館再整備事業

既存

令和5～8年度の若者の居場所づくり社会実験を基に、高校生などのサードプレイスとしてマリカ東館2階フロアを再整備する。

令和5年度実績：378人/44日間

⑮鶴岡まちづくりブランディング事業

既存

銀座通り・まちづくりスタジオ鶴岡Dadaを活用し、まちづくりセンターの運営など、まちづくりのブランド化を推進する。

令和5年度実績：19,107人/年



中心市街地活性化のための事業 ③観光

中心市街地活性化基本計画(令和7～11年度)

○目標指標

主要施設の観光
光入込客数

将来ビジョン

○想定する 取組例

鶴岡公園周辺
の観光資源と
商店街との回
遊性を高める
歩行者空間の
整備

○主要な事業概要

⑩鶴岡型DMO事業（DEGAM）

既存

地域DMOである、DEGAM鶴岡ツーリズムビューローが行う、HPやSNSを活用した情報発信、JR等と連携した観光誘客、観光キャンペーン等を活かしたプロモーション、ICTを活用した観光客のマーケティングデータの収集・分析などを実施する。

⑪インバウンド観光促進事業

既存

- ・HP、SNSを活用した多言語での積極的な情報発信を実施する。
- ・多言語に対応した観光ガイドの育成。

⑫中心市街地観光周遊促進事業

既存

- ・市街地の観光施設や文化施設、飲食店などを紹介するマップ、パンフレットを制作する。
- ・市街地観光ガイドによる市街地観光案内を実施する。
- ・市街地の4つの観光施設を巡る共通入場券を発行する。

⑬観光資源・コンテンツ磨きあげ事業

ブラッシュアップ！

周遊ツール「手ぬぐいスタンプ帳」と組み合わせた「詣でる つかる 頂きます」企画や、出羽三山神社・荘内神社・善寶寺が連携して取り組む三寺社プロジェクトなど、市街地の観光資源と市内の他の地域の観光資源を結び付けた観光コンテンツの提案。



中心市街地活性化のための事業 ④居住

中心市街地活性化基本計画(令和7～11年度)

○目標指標

- ・ 転入者数
(転居者含む)
- ・ 新築戸数

将来ビジョン

○想定する 取組例

空き家・空き
地の流動化に
より多様な住
居の選択肢を
提供する仕組
の構築

○主要な事業概要

②⑥ランドバンク事業

既存

空き家・空き地・狭あい道路問題を一体的に解決し、住民の利便性向上につながる私道等の整備にかかる費用を助成する。

②⑦住宅リフォーム支援事業

既存

市内の住宅の一定の要件工事（減災対策、断熱化、バリアフリー化等）を含む30万円以上の増改築工事又はリフォーム等工事に対し、補助金を交付する。

- ・ 基本補助額：一般世帯…補助対象工事費の10%（上限20万円）
移住・新婚・子育て世帯…補助対象工事費の20%（上限30万円）
- ・ 加算措置：鶴岡産木材の使用…補助率+5%（上限+10万円）
福祉世帯…補助率+5%（上限+10万円）
多子世帯…補助率+5%（上限+10万円）
空き家活用…補助率+5%（上限+10万円）

※中心市街地活性化区域内の場合は補助率+10%（上限+20万円）

特別枠：（移住世帯かつ空き家活用）補助対象工事費の20%（上限200万円）

②⑨中心市街地居住促進事業

ブラッシュアップ！

市内の老朽危険空き家の寄付を受けて解体・整地した土地を移住希望者や子育て世帯に住宅用地として優先的に販売する。

- ・ H26～R5実績：解体、整地7件 うち成約3件

なお、本事業は従前のスキームのみならず、中心市街地への積極的な居住促進につながる新たな制度設計を検討。



鶴岡市 家中新町

自然の心地よさをずっとそばで感じられる閑静な市街地

134.23㎡ (40.60坪)

327.5万円

(80,665円/㎡)

市有地分譲中

中心市街地居住促進補助金30万円が受けられるほか
その他の補助金と併用できます

お問い合わせは
山形県すまい・まちづくり公社 0120-303-978

鶴岡市 本町二丁目

公共施設、商店街、保育施設が徒歩圏内 生活に便利な立地の市街地

167.72㎡ (50.73坪)

316.9万円

(82,467円/㎡)

中心市街地活性化のための事業 ⑤移動

中心市街地活性化基本計画(令和7～11年度)

○目標指標

主要なバス停
の乗降者数

将来ビジョン

○想定する 取組例

市内循環バス
を核とした公
共交通の利用
促進

○主要な事業概要

令和4年10月に市内循環バスの再編に取り組み、バスを12人乗りの車両に変更したほか、ルートの見直しや本数増便などにより、バス利用者数は大幅に増加している。

しかし、徐々にバス利用者数の増加は鈍化傾向にあることから、情報発信を強化する事業に取り組み、さらなる利用者数の拡大に努める。

③②モビリティ・マネジメント事業

令和6年度開始事業

現在庄内交通(株)が実施している乗り方教室を市との共同開催とし、開催回数の増加を図る。

また、公共交通に対するイメージ向上のため、説明内容の追加や見直しを実施する。

さらに、市内循環線を対象とした乗降調査を実施し、年齢層や性別等、ICカードの乗降データから読み取ることのできない情報を収集する。調査結果をもとに、乗り方教室の対象の選定や今後の事業を検討する。

③④バス停留所高質化事業

新規！

屋根やイスが設置されているバス停のうち、老朽化が進んでいる箇所を修繕する。

また、効果的な表示や周辺施設との連携などにより、待合環境の改善について検討する。



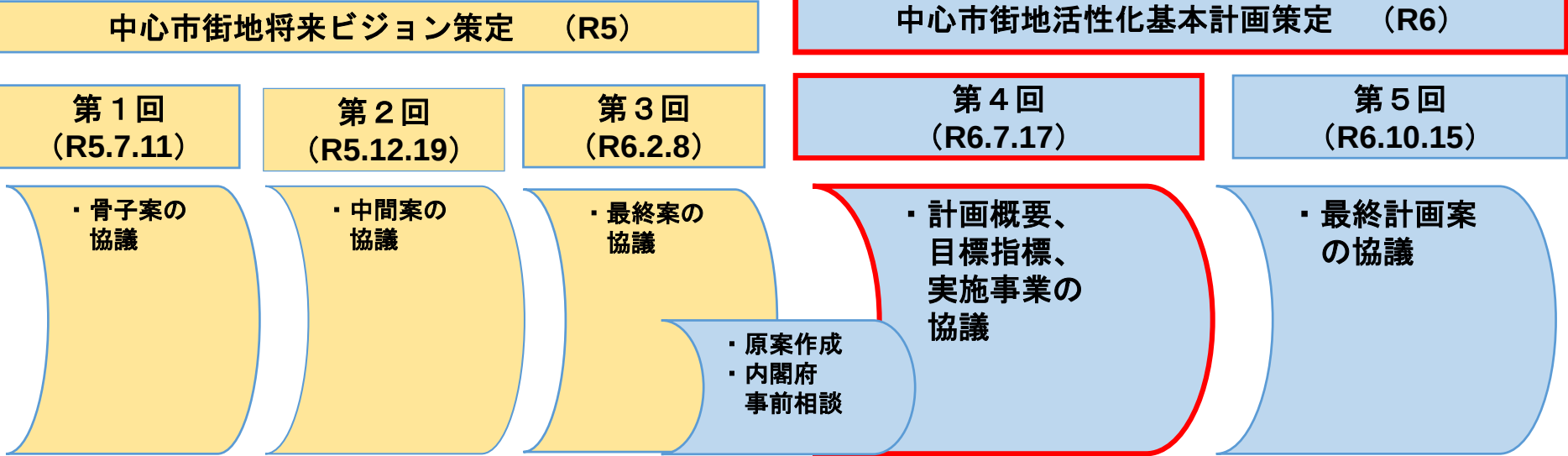
中心市街地活性化基本計画に関する意見交換会概要

○開催日：令和6年6月24日（月）

	①賑わい	②居場所	③観光	④居住	⑤移動
中心市街地賑わい研究会 （商店街若手経営者等・参加者5名）	・働き手の確保が重要 ・短時間勤務希望者と勤務時間のマッチングができれば、人材が確保できるのではないか。 ・空き店舗は観光客にとってもまちの価値を下げる。空き店舗情報を収集する機能が必要。 ・夜間も明るい商店街には人が集まりやすいので、街路灯整備が必要。		・一方通行解除は混乱が生じないように、市民はもとより、観光客にも分かりやすく整備することが必要。 ・三日町口通りに安全な歩道があれば、もっとまちなかを歩いてもらえるのではないかなお良い。	・解消すべき空き家が多く、狭あい道路解消も課題。建築用地が探せない。 ・中心市街地は利便性が高く、子育て世代の居住ニーズはある。	・人を呼ぶためには、駐車場整備が必要。 ・夜間のタクシーや運転代行業者が減っている。駅前と銀座通りだけでもバスの夜間運行ができる賑わいが生まれるのではないかな。
鶴岡商店会連合会 （中心市街地商店街代表・参加者4名）	・高齢化や後継者・マンパワー不足のため、商店街のイベント維持が困難。 ・イベント支援補助制度の利便性向上が必要。 ・魅力ある個店が離れて点在している。魅力ある個店を増やすことが大事。	・古典芸能の茶道で来街者をもてなすことができる空間整備を提案。	・羽黒山や加茂水族館の観光客を中心市街地へ呼び込むためのアイデアが必要。 ・個店において、インバウンドの対応も進めていかなければいけない。 ・日中に営業する飲食店も増えると良い。	・居住店舗の場合、居住しているうちは、出店は難しい。	・運転手不足からタクシー業者が夜間営業していない。ライドシェアの取組等を検討しては。 ・バス利用者は増えている。バス事業者との連携で利便性向上を図ることが必要。

○全体スケジュール

策定委員会



事務局

